



クヴェトリンブルク

素材研究 (海外)



旧市街のバウムクーヘン・カフェ。伝統的なバウムクーヘンを味わうことができます



ビールの本場ドイツだけにクヴェトリンブルクでも美味しい地ビールを楽しめます



城と教会が並んで立つ旧市街中心部の丘 ©Jurgen Meusel



ルターゆかりのマグデブルク。クヴェトリンブルクからは車で1時間ほどで、宗教改革500年の2017年には注目を集めそうです

市庁舎前のマルクト広場。周囲にも立派な木骨組みの建物が並びます ©Jurgen Meusel

城と教会、旧市街全体が世界文化遺産 国家統一の礎を築いた「ドイツのゆりかご」

ドイツ中央部に位置するザクセン＝アルハルト州のクヴェトリンブルク。10世紀にザクセンを率いたハインリッヒ1世が居城を構えて「国家統一の礎を築いたことから「ドイツのゆりかご」とも呼ばれ、教会も並ぶ城山と木骨組みの家々が連なる旧市街は世界文化遺産にも登録されています。

600年以上の歴史を刻む木骨組の家々

王室の庇護のもとで中世交易都市として栄えたクヴェトリンブルクでは、16世紀から17世紀にかけて商人や豪農などが競って木骨組みの家を建てました。大戦の戦禍に見舞われたドイツですが、クヴェトリンブルクは、当時の町並みがそのまま残されています。

最も古い木骨組みの家は1350年頃のものと言われ、現在、木骨組家屋博物館として活用されているほか、600年以上にわたって建てられた木骨組みによる家屋の軒数は、1300にも及びます。

14世紀半ばには、垂直の柱が屋根まで通る建築方法でしたが、後期ゴシック時代に上の階がせり出す木組みが登場し、16世紀の中頃にはニーターザクセン風のスタイルに変貌していきました。バロック時代には、上の階がせり出さないスタイルに変わり、ロココ時代

の堂々とした造りを経て、柱が二重に建てられた懐古主義時代を最後に、木骨組みも最盛期の終わりを迎えました。クヴェトリンブルクでは旧市街を歩くだけで、こうした木骨組みの家の歴史を辿ることができるのです。

カフェで味わう伝統的バウムクーヘン

旧市街中央の丘には、1000年以上前のロマネスク様式の司教座教会と城が聳え、クヴェトリンブルクのシンボルとなっています。「シユロベルク(城山)」と呼ばれる丘に教会と城が並ぶ様子は、ヨーロッパ中世の国家と教会の関係を表わすものです。教会の地下聖堂には、ドイツ初代の王ハインリッヒ1世の墓があり、司教座教会と城と旧市街全体は、1994年に世界文化遺産に登録されました。

ドイツを代表するお菓子であるバウムクーヘンは、北ドイツが発祥の地と言われていますが、ザクセン＝アルハルト州のあるハルツ地方も「バウムクーヘンの名産地」として知られています。クヴェトリンブルク旧市街の中心マルクト広場にある「バウムクーヘンカフェ」では、90年ほど前の機械で作られている伝統的なバウムクーヘンを味わえ、散策途中の休憩に楽しむことができます。

旧東ドイツのクヴェトリンブルクでは、宗教が否定された共産主義時代にもクリスマスの行事だけは残され、マイナス10度を超えるという寒さの中で続けられてきた盛大なクリスマス市は、今も多くの人々を集めています。